

卓 話

平成 30 年 4 月 10 日

『仮想通貨の常識と非常識』

日本仮想通貨事業者協会
顧問 畠山久志 様

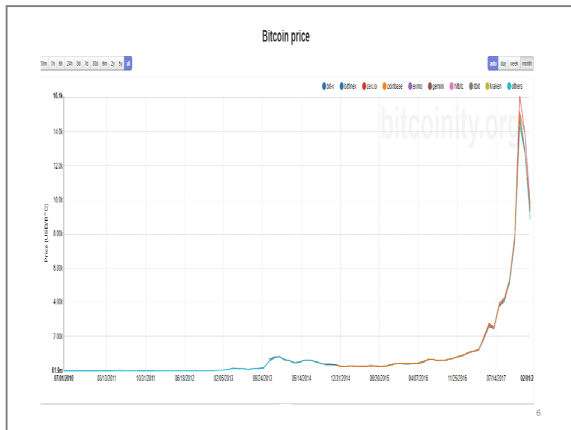
1. 仮想通貨の基礎知識
「仮想通貨のネーミング」
○CRYPTO CURRENCY
暗号(仮想) 通貨
○VIRTUAL ASSET
仮想 資産
(注) 中本論文では、CRYPTOともVIRTUALとも表現されていない。
(physical currency)



①BITCOIN史

- 2008年11月1日
Satoshi Nakamoto アイデア公表
- 2009年1月9日
BITCIONのソフトウェア公開
その後、運用開始(仲間内の実験)
- 2010年5月22日
「BITCOIN PIZZA DAYビット」
ビザ2枚と1万BITCOINとの交換成立

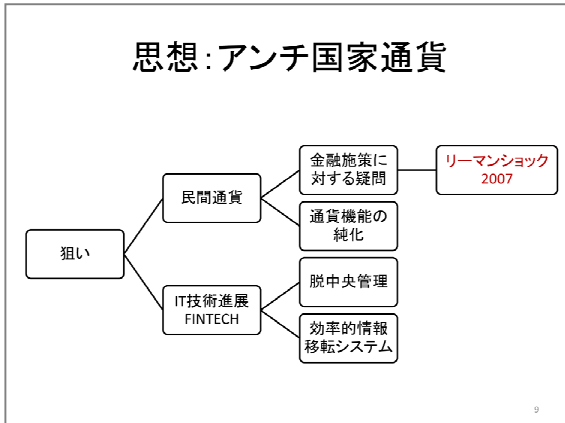
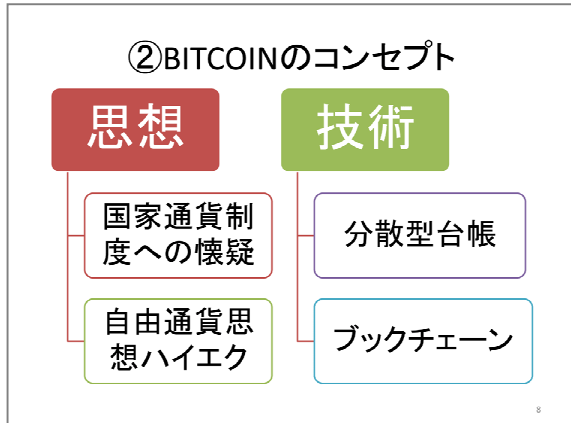
- 2011年～取引の活発化
- 2014年2月Mt.GOX破綻
- 2015年7月
NY州BITLICENSE施行
- 2016年5月
仮想通貨法成立(決済法改正)
- 2018年1月
COINCHECKの流失問題
- 2018年3月 G20で規制の方向



価格上昇の背景(分析)

○1年間で20倍「仮想通貨バブル元年」

- 超低金利
- 金融緩和(カネ余り)
- FX取引の相対的魅力減少
- 実需はなく、投機対象に特化
- 価格上昇のアナウンス効果
(価格形成の恣意性・根拠なし)



③BITCOINの特徴

1. 情報単位の設定 1BTC(最小単位0.00000001)
2. 情報単位数の上限 2,100万BITCOIN
3. サイクル年限 2140年
4. 発行者の不存在
5. マイナー(採掘者)による取出し(唯一の発行)
取引のチェック等+ノンス・64桁英数字の引出し
マイニングに際し、報酬付与(7.5BTC) 競争激化
6. 第三者機関(銀行)の不存在
7. コア技術者の存在
8. 取引所の設置
9. 派生が続く(容量不足等が原因)
10. 暗号利用は、従来と同様(新規性なし)

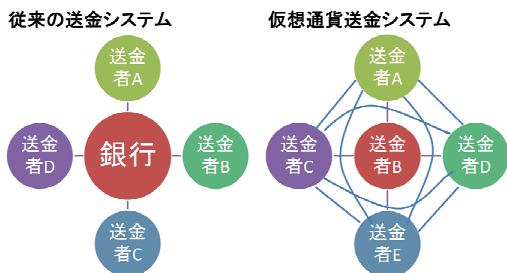
10

④BITCOINの優位性

1. 分散型台帳(自己責任制)
2. システムの共有(改良等の協議制)
3. 処理の自己完結
(銀行等仲介機関の排除)
4. 支払手段の利便性・迅速性
5. 為替リスクが存在
6. カントリー・デフォルトリスクがない
7. 金利がない
8. 国の金融政策との中立性

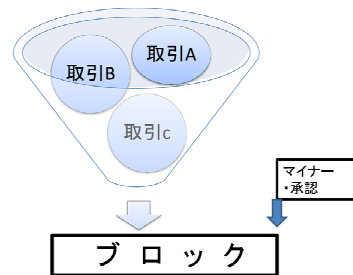
11

⑤送金システム



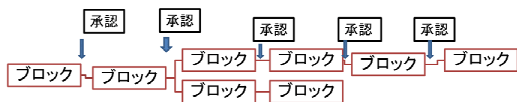
12

—2取引によりブロックの作成 [1 BLOCK = 1 MB (max2,000取引)]



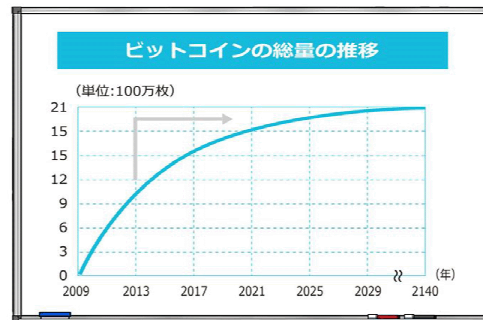
13

—3 BLOCKの承認・連続 = BLOCK・CHAIN



14

⑥BITCOIN発行枚数



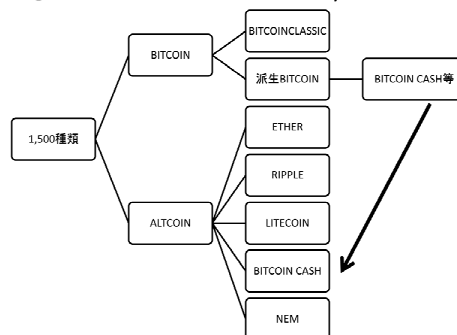
15

⑦多様な仮想通貨の発生理由

1. 仮想通貨ソフトウェアの公開
オーダーメイド通貨の作成可能
2. BITCOINの不備・欠点
 - ①処理時間が遅い(SCALABILITY)
 - ②マイニング負担(CP、電力)が大きい
 - ③契約情報が入らない
 - ④管理が不便(迷子コインの存在)
 - ⑤組戻しが不可能
3. **価値保障の不存在**
発行通貨に引当財産がない:理論値がない

16

⑧仮想通貨の種類:1,500種類



17